

分野・業種

医療分野

企業名

那須赤十字病院

背景・課題感

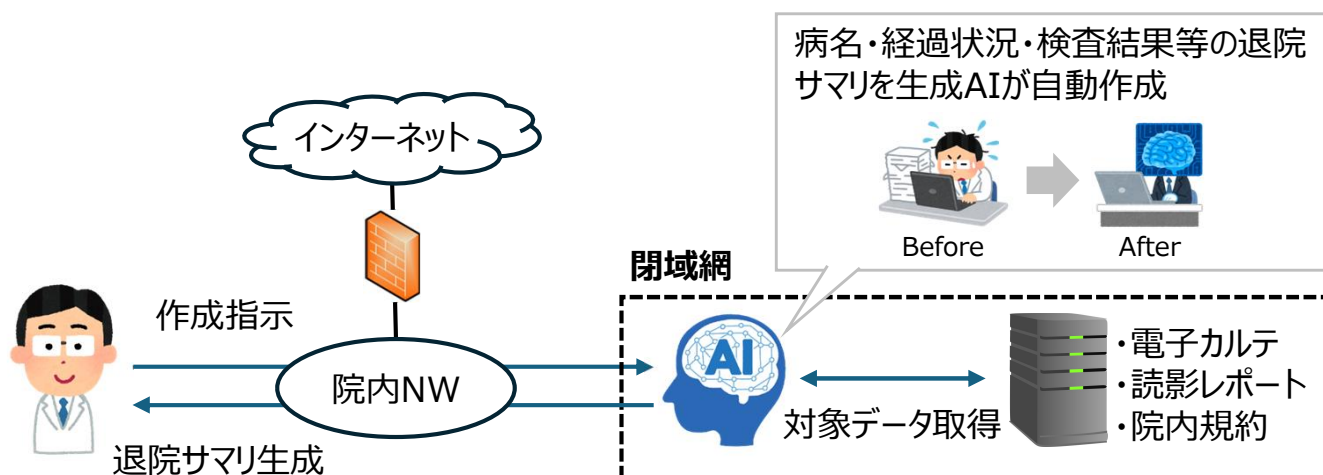
院内業務の平準化及び簡素化

- 医療安全のための院内規約、手順書が膨大になり、業務手順の徹底を文書で実行するのが困難であり、さらに人的ミス防止のための複数人でのチェック作業の稼働が膨大
- とくに退院サマリ作成業務においては、**作成時間・修正回数ともに多くの事務稼働が発生**
- 診療データは多くの個人情報を含んでおり、外部への情報漏洩を回避するために**オンプレミス型（閉域網）での管理が必要**

取組概要

オンプレミス型生成AIサーバーによる対話型支援SYS構築

- オンプレミス型生成AIサーバーのRAG機能により、電子カルテ・読影レポート・院内規約と関連付けた**生成AIの対話型支援SYS**を院内ネットワークに構築
- 従来は人が退院患者の退院サマリを作成していたが、生成AI導入により**自動で退院サマリを作成**（過去の退院サマリに対する自動生成カバー率52.8%）



成果・今後の方向性

退院サマリ作成稼働の効率化

生成AI活用範囲拡大および地域医療施設への提供を検討

- 従来、人が作成していた退院サマリを生成AIが自動作成することで**▲52.8%の削減効果**
- また退院サマリは事務職員の複数人チェックにより平均2.56回の修正が行われているが、生成AIによる人的ミス防止により、**チェック体制を3名⇒1名体制へ変更可能**
- 今後は院内業務への**生成AI活用範囲拡大および生成AIの地域医療施設への提供**を目指す

【効果】

退院サマリ作成稼働の効率化

● 従来

患者1人あたり作成時間32.8分×年間入院患者数11,040人＝総作成時間6035.2時間

● 生成AI導入による削減効果

総作成時間6035.2時間×自動生成カバー率▲52.8%＝▲3168.6時間

（医師の年間総労働時間1.56%相当）

分野・業種

製造分野

企業名

株式会社ヤイタ工業

背景・課題感

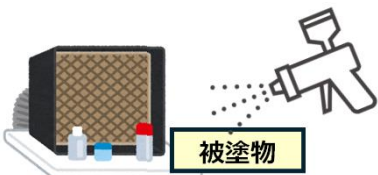
VOCの排出抑制への取組およびVOCレスな塗装設備開発

- 塗装業を行う顧客向けの自動塗装設備の設計・製造・据付を行っており、塗装業においては有機溶剤を使用するため、VOC（揮発性有機化合物）が発生
- VOCの排出基準による環境配慮のため、塗装業としてVOCの排出抑制への取組が急務となっており、その塗装設備を製造する企業としてもVOCレスな塗装設備開発およびVOC量の自主測定・データ管理による顧客提示が必要

取組概要

VOC排出抑制に向けた環境設備の導入提案

- 工場内に塗装ラボ施設を所有しており、顧客はトライアル的に被塗物への塗装を行っているが、従来は塗装業を行う顧客に対して、**溶剤吐出量のみ**の提示にとどまっていた
- VOCセンサーを導入することで、使用する有機溶剤ごとのVOC排出量を測定できるようになったため、顧客に対して、**定量的なVOCを提示することでVOC排出基準に準拠するための環境設備（ジェットスクラバー、水式ミストキャッチー等）の導入提案が可能**

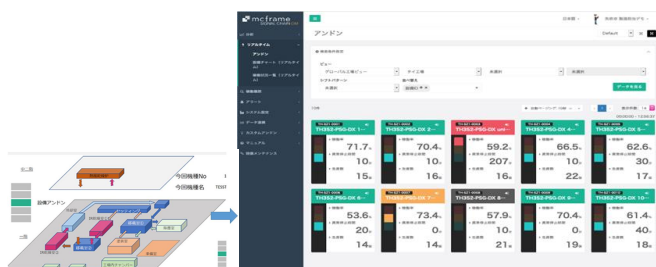
 溶剤吐出量のみ の提示 ⇒VOC排出量の提示ができないため、 環境設備の導入提案の信憑性が低い	 VOCセンサーにより定量的なVOC排出量を提示 ⇒VOC排出量をどのくらい抑制すべきかの 最適な環境設備の導入提案が可能 VOCセンサー 最大: ●●ppm 平均: ●●ppm
Before	After

成果・今後の方向性

VOC排出量提示による環境設備の販売売上増
VOC測定データに基づく新規環境設備の開発

- VOC排出量の測定およびデータ管理が可能となり、現状国内外の塗装業者からのニーズも多数あるため、**VOC排出量提示による環境設備の販売売上2倍**を見込む
- 有機溶剤ごとのVOC排出量がどのような環境（排風能力等）でどの程度排出されるかのデータを測定・蓄積・活用することで、**環境設備の開発・設計・製造**を行い、VOC削減による**環境配慮と社会貢献を実現**

■ VOC測定データの見える化



【効果】

環境設備の販売売上

- VOCセンサーの排出量提示による効果
環境設備の販売売上2倍（見込み値）

環境設備の開発

- VOC測定データ活用による効果
有機溶剤や環境ごとの最適な環境設備の開発

分野・業種

運輸分野

企業名

宇都宮子育て支援株式会社

背景・課題感

子育て世代の各ライフステージで起きうる悩み解消

- R5年9月よりタクシー会社と連携した妊婦と子どもの送迎事業を行っており、事業開始から1年間で「子育てタクシー」の登録者数は1200名以上
- 登録者の性年代や生活環境などの定性データとサービス利用頻度などの定量データをあわせて分析することにより、**妊婦および子育て世代のリアルなニーズ**を読み解き、**事業拡大に向けた新しいサービスを創造**し、収益と認知度向上を目指す

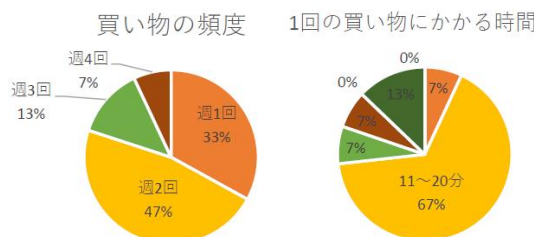
取組概要

「移動×買い物」の新たなサービス創出に向けた取組

- 子育てタクシーの登録者を年代・エリア・出生数等によりデータ分析し、送迎時に希望商品を届ける仕組みとなる**新たなサービス（買い物代行サービス）のターゲット選定準備**
- 子育てタクシーの登録者を対象に買い物に関するアンケート調査を行い、**顧客の正確なニーズを把握**（買い物の物理的負担や時間不足より、共働き家庭での需要が高い）
- 買い物代行サービスの実証実験により、**共働き家庭の利便性を向上させる可能性を検証**



①顧客データの分析



②顧客ニーズ調査



移動



買い物

③買い物代行サービスの実証実験

成果・今後の方向性

買い物代行サービスによる時間短縮効果
本格導入に向けたサービス改善とターゲットの明確化

- 子育てタクシーの登録者のうち、2つの共働き家庭で買い物代行サービスの実証実験を行い、利用者は買い物代行サービスにより**仕事帰りに買い物に行く手間が省け利便性を実感**
- また、細かい注文オーダーが容易に伝えられる**LINE注文の利便性**や置き配ではなく**直接受け取りによる盗難リスク回避の安心感**においても高評価
- 今後は、各店舗のポイントカード対応等における**サービス改善**や「①顧客データ分析」に基づいた**利用頻度が高いエリアでの共働き家庭を中心ターゲットとした本格導入**を目指す

【効果】

買い物の時間短縮

- 買い物代行サービスによる効果

週2回の買い物が週1回に短縮（勤務終了後に買い物へ行く手間が省けた）

分野・業種

観光分野

企業名

ヤマゼンコミュニケーションズ
株式会社

背景・課題感

改善提案のスキル平準化及び効率化

- 現在各地のグルメや地域資源に関する情報を収集し、季節・エリア特性を元に特集等を行い、利用者に興味を持ってもらう、訪問して口コミを書いてもらう仕掛け等を行っている。
- 本来であれば会員情報・アンケートデータに基づいた観光施策も実施したいが、データ収集・分析に時間がかかっていることと、担当者の経験を元に進めている部分が多く、特定のメンバーに頼らざるを得ない状況のため、効果的な施策ができていない。

取組概要

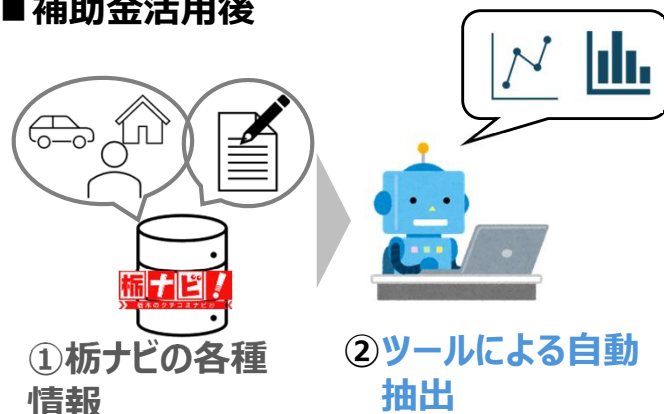
データの取得を効率化するツールを開発

- 栃ナビで収集した各種情報（会員情報、会員へのアンケート情報など）を自動で抽出できるツールを構築。
- 構築したツールにおいては、誰でも使えるようにすることで属人化を解消。また自動抽出により大幅な効率化を図る。
- ・効率化した稼働を基により深く分析を行うことで、効果的な施策の提案を行う。

■現状



■補助金活用後



成果・今後の方向性

データ抽出作業に係る稼働を150分/件削減 栃ナビ！データを活用した分野拡大を検討

- データ出力・集計にかかる作業時間が180分⇒**30分に削減**。導入前よりも深くデータ分析に時間を割くことが出来る見込み。
- データ抽出をツール化したことで業務の属人化を解消。
- ツール化により、新たな分野・ジャンルへの栃ナビ！データの利活用を目指す。



【効果】

栃ナビ！データ抽出稼働の効率化

- 従来
・1件あたりのデータ抽出時間180分
- 集計ツール構築による削減効果
・1件あたりのデータ抽出時間30分

分野・業種

情報通信業

企業名

株式会社フォーカス

背景・課題感

AI構築の作業を効率化させ納期を短縮化

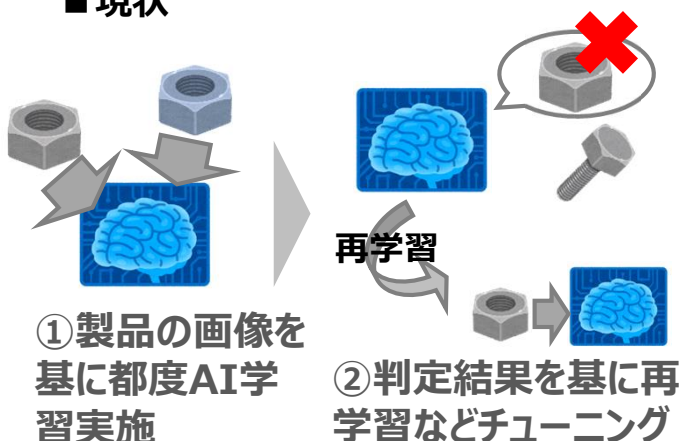
- 画像検査ソリューションをお客様に提供しているが、個別で新規の画像検査AIを構築しており、都度構築作業としてアノテーション作業やAIモデルのチューニング作業を行っている。
- 構築作業が案件の都度発生し必要工数が膨らみ、社内の稼働を圧迫しているほかお客様への納品まで時間がかかる一つの要因となっている。

取組概要

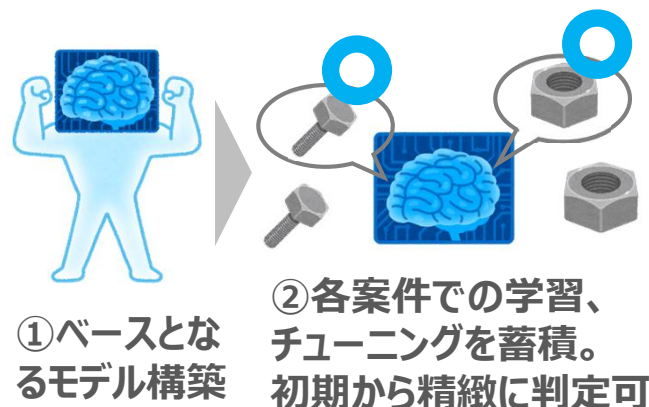
画像検査AIのベースとなるモデルを開発

- AI画像検知の構築において、ベースとなるAIを構築。
- 各案件が発生した際にベースとなるAIに学習データを蓄積していくことで、適宜実施していたアノテーション作業やチューニング作業を効率化。
- 構築したAIを新規でのAI開発において活用し、構築作業における省人化を図る。

■現状



■補助金活用後



成果・今後の方向性

AI構築作業に係る稼働を1020分/件削減 工数削減による短納期や安価での提供を検討

- 今回作成したモデルによって、アノテーションと判定精度を改善するための追加学習にかかる工数の削減を実現（△1020分/件）
- 従来では事前検証で1か月、本導入に向けた開発で3か月程度を要するが今回のAI構築により開発工数が大きく削減。より安価に、短納期で提供ができる見込み。
- 今後は更なる判別精度の向上を進めるべく、ソフト・ハードの改善を進めていく。

■開発工数の比較



【効果】

検証用AI構築の効率化

- 従来
追加学習にかかる時間3660分
- 集計ツール構築による削減効果
1件あたりの学習時間△1020分